

# 藤原 辰史 (フジハラ タツシ)

(Fujihara Tatsushi)



生 年 1976 年 出 身 地 島根県

現 職 京都大学 人文科学研究所 准教授  
Associate Professor, Institute for Research in Humanities, Kyoto University

専門分野 農業史

略 歴 1999 年 京都大学総合人間学部卒  
2001 年 京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了  
2002 年 京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程中途退学  
2002 年 京都大学人文科学研究所 助手(2007 年 4 月より助教)  
2004 年 博士(人間・環境学)の学位取得(京都大学)  
2009 年 東京大学農学生命科学研究科 専任講師  
2013 年 京都大学人文科学研究所 准教授(現在に至る)

## 授賞理由

### 「農業と食におけるナチ・エコロジズムの批判的考察」

(A Critical Study on Ecological Thoughts in the Third Reich: From the Viewpoint of Food and Agriculture)

藤原辰史氏は、一見、自然中心主義的にして合理的な説得力を持ちえたナチ・エコロジズムが、その内実において反人間のイデオロギーへと反転するメカニズムを解明した。

たとえば、化学肥料に依存した近代農業を否認するナチの農本主義者たちは、動植物と人間の生態論的平等を説きつつ、両者の境界を曖昧化して、アーリア人農民を優等人種再生産の種とみなし、他方で劣等人種を雑草、害虫や劣等な家畜と同一視して、その除去を正当化した。また、戦争中、ナチは、第一次大戦期の飢餓再来防止や国民の健康増進のため、主婦に国内産食材の使用、残飯の飼料への再利用、肉食の節約を訴えたが、それは、強制収容所での人間の最低必要栄養量を図る人体実験と占領地農村の飢餓とセットであった。

農業と食におけるナチのエコロジズムに着目した藤原氏の研究は、現代のエコロジズム批判をも射程におさめつつ、すでに膨大な蓄積のあるナチのイデオロギー批判に新たな地平を切り開くものである。